

祝！総理大臣杯優勝！

～決勝戦後コメント～

金正也



「(優勝)嬉しいです。相手の10番は速いし、身体能力もあるし、動き出しも上手いということ、試合前からわかっていた。何とか自由にやらせないようにCBの2人でみるという話はしていたので、紘吉が潰しにいて僕がカバーという形でやっていた。僕のサイドじゃない方を走られた時の濱田と紘吉の対応が失点のシーンは良くなかった。もう少し声かけてやれば防げただろうし、もったいないなと思った。(パワープレー)相手が引いてきてたりしたら、僕を前でやらせると言われてはいたのですが、笠井が前に出て僕がボランチという風な指示が出てたらしいのですが、僕が勝手にFWをやったというか…。(高さのため)僕もそうだと思っていたのですが…。(苦笑)本当かわからないですけど、誰かがそう言っていました。(常に追いつく展開)おかしいとは思わなかった。失点した時も動揺がなかったし、追いつける時間もあったので、全然焦ることなく絶対勝てると思っていた。諦めている選手も1人もいなかった。相手より走れると思ったし、キツイ練習もしてきていたので、そこだけは負けたくない全員で言っていて、声出して走り勝つということ話していた。(収穫)悪いなりの試合だったとしてもチームとして同じ方向を向いて、最後まで諦めないで闘って逆転する力がついてきたということが、チームとして成長したのかなと思う。細かい部分はかなり修正する必要があると思うが。(天皇杯)プロを倒すというのも一つの目標に入っているの、自分たちより格上のチームとやることもあるだろうし、一戦一戦チャレンジャーの気持ちを忘れずに、ぶつかっていければ、自分たちの代は天皇杯は初めてなので、このチームで頑張りたい」

「投入の時間は言われていなかった。(ボールが回って)こなかったらいつかくるんじゃないかと思っていました(笑)(シュートを)打たないと点が入らないので、意識はしていた。シュートにはあまり自信が無かったので、そういう意識は薄かったかもしれない。へたくそなので。(シュートの形は)狙っていた意識はしていた。中に入ってシュートというのは。(ゴールは)たまたまです。本当にたまたま」



湯澤洋介

酒井隆介

「(今の気持ち)サイコーです。正直(体は)一番キツかったが、最後の試合ということで頑張った。(金が上がった時の指示)特に無かった。金が上がったら、放り込んで前に前に、金に競らしてこぼれ球を狙えという、金が上がったこと自体がそういう指示なので、言われなくても理解できた。(天皇杯)この勢いで勝利を狙いたい」



金久保彩

「人生で初めての優勝なので嬉しいし、この仲間とできて良かった。自分のコンディションが悪くて、チームに迷惑かけてしまったので、もっと自己管理をしないといけない。自分の持ち味は運動量なので、今回、足引っ張ってしまったのでリーグ戦もあるが、それに向けて修正していきたいと思う。この暑い中で連戦を戦うのはキツくて、疲れのある中で自分のプレーがなかなか上手いはずにきてしまったので、運動量を増やさないといけない。(天皇杯へ)勝ち上がっていけば、プロとやれるので、そこでチーム一丸となって、優勝という気持ちで頑張っていきたいと思います」